



鯉おこし

第118号 2026年3月末発行
発行・編集：(一社)富山県社会福祉士会



新年度を迎えるにあたり

会長 清水 剛志

新年度を迎えるにあたり、会員の皆さまには日頃より社会福祉士会の活動にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。年度末から多くの富山県社会福祉士会の研修が実施されました。日々の支援業務において一定の手応えを感じる一方、助言や指導の場面では難しさを覚えることがあります。研修では、その背景として「信頼関係」の重要性が示され、対象者への支援においてパートナーリズムを避けるためにも、また支援者同士の関係においても、信頼関係の構築が不可欠であることを改めて認識いたしました。

本会には、多様な職種・立場の社会福祉士が所属しております。業務内容は異なっても、「権利擁護」という共通の基盤は変わりません。今後も会員の皆さまとともに活動を継続し、専門職としての責務を果たしていきたいと思っております。

また、社会福祉士国家試験の合格発表があり、新たな仲間が加わりましたことは大変喜ばしいことです。国家試験の前に、社会福祉を学ぶ大学生とお話する機会があり、成年後見人として権利擁護に携わりたい方、子どもの福祉の実現に取り組みたい方など、それぞれの思いを伺いました。こうした思いを持つ方々がいずれ本会に加わり、共に歩んでいただけることを心より願っております。

一方で、高齢者福祉、障害者福祉、子ども家庭福祉、地域福祉など、各分野で人材不足が深刻化しています。賃金格差や業務負担、専門性に対する社会的評価の低さなど課題は多岐にわたりますが、それでも福祉の道を志す人がいることは大きな希望です。新たに社会福祉士として歩み始める皆さんには、その志を大切に、それぞれの現場で力を発揮していただきたいと思います。社会福祉士は、社会変革や社会的結束、人々のエンパワメントを促進する専門職であり、人こそが社会を支える存在であることをあらためて発信していきたいと思います。

生涯基礎課程「基礎研修」に参加して

基礎研修では、社会福祉士が共通に必要な価値・知識・技術を学び、専門性の基礎を身に付けることを目的としています。基礎研修 I を受講した 3 名に感想を頂きました。



富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

廣瀬 真澄

私は 2000 (平成 12) 年に社会福祉士を取得し、介護保険法が施行されたと同時にソーシャルワーク実践現場で歩んできました。20 歳代の頃はひたすら毎日の業務をこなしながら、様々な研修を受けました。30 歳代の頃は介護支援専門員や精神保健福祉士を取得し、現在の職場で実践してきました。しかし、3 年前にこれまでのソーシャルワーク実践現場から異動となり、激しい落胆の世界に突き落とされ、その一番深いところでもがいているような状態を感じる毎日に陥っていました。そんな時、社会福祉士会の活動に参加させていただき、ふと悩みを打ち明けることができました。私の話を傾聴していただき、共感的理解を示してくださり、温かい言葉をかけてくださいました。今年度受講した基礎研修 I では、集合研修だけでなく、「他の分野の社会福祉士に会って話を聞く」という課題に、大変さを感じながらも、直接会っていただき課題の話をしていく中で、いつしか自身の落胆の世界が温かい言葉で埋められていき、回復していくことを実感しました。

社会福祉士になぜ倫理綱領が必要なのか、社会福祉士に共通する専門性は何か。様々な領域の社会福祉士実践を理解する意味は何か。これらを考えることで、視野が広くなり、自身の軸に倫理綱領を置くことの大切さを改めて学ぶことができました。

菊地美穂子

社会福祉士基礎研修Ⅰに参加して。制度を「知っている」だけでは足りず、現場でどう判断し、どう言葉にして連携するか日々迷う中で、葛藤そのものが学びであるという指導はとても新鮮でした。研修を受けに来ている方々は年齢も職場も様々でしたが、同じ社会福祉士という基盤を共有する貴重な同期でありこの先のつながり方が楽しみな存在です。自分自身も小さな成長を積み重ね小さな変革を起こしていきたいです。

平野 拓己

今回のテーマは「社会福祉士に共通する専門性」と「倫理綱領・行動規範」に関するものでした。ライフスタイルや価値観が多様化し、様々な課題が複雑化する現代で私たち社会福祉士の業務には悩みや葛藤が付いてまわります。グループワークではそんな思いを共有し、葛藤の多い専門職だからこそ行動の指針や倫理綱領は心に置いておかないといけないものだ改めて感じました。また、集合研修の前に行った事前課題では様々な職域や立場で働く先輩社会福祉士の皆さんのお話を伺う機会をいただきました。職域が違うことで想像もしていなかった苦労や努力があったり、逆に自分と同じ悩みを持っておられたり、これからのヒントや目標が見つけれられたりと、とても有意義な時間をいただけた気がします。

普段勤める圏域や職域ではお話しする機会のない方々との時間はとても貴重で刺激的なものです。また来年度も会えることを楽しみに基礎研修Ⅱの準備にかかりたいと思います。有り難うございました。

2025年度第1回ソーシャルワーク研修会

12月13日(土)に射水市のアイザック小杉文化ホールラポールで、5名の社会福祉士による実践報告会を行いました。こども分野、障がい分野、高齢分野、医療分野、地域分野の5つの幅広い分野から、実際の支援について学べる貴重な機会となりました。どの分野であっても共通基盤であるソーシャルワークが展開されていることを再認識する機会となりました。ご報告頂いた実践者の皆様ありがとうございました。学生の方も交えてのグループワークも新鮮な雰囲気で行うことができました。



2025年度第2回ソーシャルワーク研修会

1月23日(金)にオンライン研修で「住民主体の地域福祉の活動の推進～小地域福祉活動計画の評価を通して～」と題して、日本福祉大学学長の原田正樹先生にご講演頂きました。国からの通知やガイドラインなどを読み解きながら、小地域福祉活動計画の作成のポイントや評価方法などを学びました。住民自身がプラン作りを通して話し合い、地域課題に気づき、自ら我が事と考えて地域へ働きかける。これらが住民の経験となり、容器に水を貯めるように地域の福祉力高めることにつながると話されていたことが印象に残りました。原田先生のゼミ生になったような気分で、参加メンバーで意見を交わすことができました。



第19回富山県ソーシャルワーク三団体合同研修会

3月1日(日)富山県総合福祉会館で富山県社会福祉士会、富山県精神保健福祉協会、富山県医療ソーシャルワーカー協会の三団体合同で研修会を開催致しました。今回は昨年引き続き、京都府立大学の名誉教授であられる中村佐織氏を講師にお招きし、「ソーシャルワークの展開過程に必要な専門的方法～面接・記録を中心に～」をテーマにお話頂きました。三団体の共通基盤であるソーシャルワークをテーマに面接や記録を中心に演習を交えながら、学びを深めることができました。それぞれのベースであるソーシャルワーク実践を改めて振り返ることのできる良い機会となりました。



権利擁護委員会

「成年後見人材育成研修」「名簿登録研修」を開催しました。

専門職後見人としての社会福祉士が身につけるべき知識・技術を修得し、権利擁護センターにおける成年後見人としての一定の力量を確保することなどを目的に公益社団法人日本社会福祉士会の委託研修として9月から12月にかけて4日間の研修を実施しました。

富山県・福井県・石川県の計16名(富山9名・福井2名・石川5名)が無事、修了されました。

富山県の修了者を対象に、社会福祉士の専門職後見人として活動するための「名簿登録研修」を2月15日(日)、サンシップとやまにて対面形式で行い、昨年度修了された方を含めて計9名の方が修了されました。

今後、ぱあとなあの一員としてともに活動できることを楽しみにしています。受講者の感想を一部、掲載いたします。



《受講者アンケートより》

- 研修終了まで5年、頑張りました。講師の皆様も忙しい中貴重なお話、ありがとうございました。後見制度が変わりそうな今、本業をしながら名簿登録申請して受任するか迷いますが、まずは1件受任し、ぱあとなあの支援を受けながら成長していけたら素晴らしいと思いました。
- それぞれの立場の方と一緒に研修を受講でき大変勉強になりました。まずは皆さんと名簿登録研修まで到達できてよかったです。今後の支援に活かしていければと思っています。県士会の皆様本当にありがとうございました。
- 本日の研修を向えるまで基礎研修を受けてから、アクシデントが重なり6年かかりました。やっとたどりついたことを無にしたくなく、いつか早めに受任できたらと思います。
- 仕事では制度に“つなぐ“ことが多く、今回の研修を通じて学んだことを今後活かしたいと思いました。不安は大きいですが、いつか1件受任したいと思いました。
- 実務についての理解を深めることができて良かった。成年後見人としての責任の重圧に本当にできるかなと思っていたが、サポート体制について知ることができて少し安心した。すぐに受任できるかは職場との相談になるが、受任していけたらいいなと思った。
- 人材育成研修の3年に1度の富山県での開催や自身の受講要件に気づき、今がタイミング

かもと受講を申し込みました。研修では、慣れない法律の知識やその解釈に混乱したままでしたが、後見人の職務である善管注意義務、身上配慮義務の奥深さを学ぶことができました。同時に、相手の方の人生の最後まで関わる職務の重みも感じました。研修が終わったというより入口にたどり着いたという気持ちです。以前は成年後見制度の説明や申立てまでの支援の関わりでしたが、今後は後見業務にも携われるようさらに研鑽を積んでいきたいと考えています。

フォローアップ研修を開催しました。

2月22日(日)、サンシップとやまにてばあとなあ登録者を対象にフォローアップ研修を開催し、登録者23名が日々の実践の振り返りを行いました。前半は、「意思決定支援チームで関わる事例」や「独居の知的障害者、GH入所までの支援」、「不動産相続後、売却した事例」「未成年後見の事例」について事例紹介をしてもらい、後半はグループに分かれて意見交換を行いました。

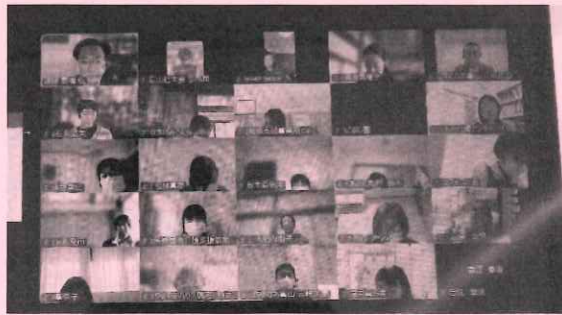


成年後見活用実務セミナーを開催しました。

1月15日(木)にオンラインにて福祉関係者等を対象に標記セミナーを開催し、約80名が後見制度について理解を深めました。最初に権利擁護センターばあとなあ富山の活動紹介を行い、次に中核機関の取り組み紹介と題し、富山市社会福祉協議会の岩下様より、受任者の調整、地域連携ネットワーク、市民後見人養成と支援について紹介をいただきました。

メインの講演会では、日本成年後見法学会副理事長、全国レガシーギフト協会理事の司法書士高橋 弘先生より「本人の意思を生かす支援のかたち～任意後見制度と高齢者終身サポート事業の活用・留意点～」と題し、ご講演をいただきました。制度の成り立ちから現在の状況、今後の行方まで分かりやすく視座に富んだ内容で受講者からは大変参考になった、分かりやすかったとの声を多数いただきました。

後半は2つの分科会に分かれ、ルーム1では申立実務について、ルーム2では身寄りのない事例について紹介を行いました。



《受講者アンケートより》

- 中核組織としての社会福祉協議会の取り組みや、多職種連携の実例を通して、後見制度が本人の意思決定支援を中心であることを改めて認識しました。この点は、私がめざす業務であると認識しました。
- 今後、後見人として仕事がしたいので相談支援や地域での実践に活かしていきたいと思えます。
- 今後の後見人制度の成熟にむけて、本人の意思と残存能力を引き出すアプローチが重点課題であると再認識した。
- 色々な職種、色々な団体、色々な人が模索しながら後見に関わっている事が伝わって来て刺激になった。研修会大変良かったです。
- 今回富山県において、社会福祉士会の活動の中で権利擁護センターや、中核機関があり、どのような活躍をされているかを知る機会をいただけたことに感謝しております
- 看護師の自分にはまだまだ難しい内容でもあったのですが、診療所の勤務をしていると最近の超高齢化社会のなかで成年後見の必要な方が多くなってきているのを強く感じます。
- 富山市社協の市民後見制度養成・育成支援の努力に頭が下がります。
- 高橋先生の講義は大変わかりやすく、国の成年後見制度改革についても触れられ大変参考になりました。
- 「事が起きてからではなく事前の備えが必要」「意思決定の支援」「成年後見制度の誤解」などが印象に残っています。
- 成年後見人の方が継続して研修を受けながら仕事をこなされていること、本職のほかに後見人として仕事をされている方がいる事など、成年後見人という仕事のご苦勞を知ることができたと思うしリスペクトされるべき仕事にもかかわらず誤解を受けているという側面があることを知れた。
- 任意後見の前に、任意代理等見守りや死後事務などがあることへの理解が深まり、長年の疑問が、解決しました。混乱していました。なお、今後の法改正の動向を見守りたいと思います。
- 申立セット等の説明も一緒に資料を見ながら確認できて理解しやすかった。
- 成年後見制度の理解深められた。申請用紙の記入方法は、とくに勉強になった。
- いつも、成年後見の手続きについて、専門家にお任せしていたのですが、実務がわかってよかったです。しっかりと説明ができます。
- ケアマネージャーをしています。独居の方や身寄りのない方、県内にご親戚の方不在の方など支援する中で後見人制度を何度かご提案することがありましたが、どう進めていいのかもわからず提案していたのが改善できるのではないかと考えております。
- 制度の歴史や動向を知ることができて、参考になりました」。2部では事例の紹介をいただきましたが、具体的なのでとても分かりやすく、参考になりました。ありがとうございました。

子ども家庭支援委員会

社会的養育に関する勉強会(第2回)を開催しました。

1月24日(土)、富山県民会館にて第2回の勉強会を開催し、オンライン参加を含め15名とともに社会的養育について理解を深めました。今回は、富山保護観察所 保護観察官 森伸子先生から「複合的な課題を抱える非行少年の支援～少年院の取り組みを中心に～」についてご講義をいただき、その後、意見交換を行いました。

特に家庭以外の「受け皿」となる制度の充実が必要であることや、居場所・出番・仲間の存在の大切さ、保護者や家庭への支援が大切であること、抱え込まないチーム支援の必要性、地域社会全体の理解が重要である点が印象的でした。今後も社会的養育について学んでいきたいと思っております。森先生ありがとうございました！



子ども家庭支援委員会(第2回)研修会を開催しました。

12月6日(土)に富山県民会館にて、SSWや児童福祉分野の相談員等を対象に標記研修会を開催し、14名が参加しました。

今回は、富山県総合教育センター 教育相談部 客員研究主事 公認心理師・臨床心理士の濱野 恵美先生をお招きし、「心がつながる親子支援」と題し、ご講演をいただきました。特に教師の心理的背景や ACEs とトラウマの理解、ジェノグラムと家族理解について、ミニワークも行いながら終始楽しく学ぶことができました。濱野先生ありがとうございました！



私のおススメの本

下記のアンケートから会員の方から募集中です。おススメの本や漫画など大歓迎です。事務局へメールで原稿をお送りいただくことも可能です。みなさまのおススメを心待ちにしております。

題名 『休養学』博士が20年間考え続けた 毎日がんばるあなたのための『疲労学』

作者：片野 秀樹

本屋さんに行ったら、入口付近の棚に置かれていて、いつの間にか手に取ってました。著者は、日本リカバリー協会代表理事をされている方で、疲労を抑える方法について紹介されています。「不快なコメントは即ブロックをしよう」、「嫌なコメントも私にとって意味がある」と考えるなど、SNS やストレスの向き合い方についても書かれています。仕事でのオンオフをしっかりとすることも疲労を抑えるポイントだそうです。

みなさんも仕事柄お疲れではないでしょうか。よければご一読いかがでしょうか。(匿名)

事務局からのお知らせ

事務局へのお問い合わせは、E-mail またはお電話でお願いいたします。

(土日・祝祭日を除いた 10:00~15:00)

連絡先 Tel/Fax: 0766-55-5572 E-mail: toyama.csw@gmail.com

会員数 512 名(令和8年2月 末日現在) 研修を受け自己研鑽に努めましょう。

★アンケート★

皆様のご意見を、獅おこしに反映させられたらと思います。お気軽にご意見をお寄せください。



アンケートは
こちらから



編集後記

今回も原稿やアンケートにご協力いただいた皆様ありがとうございました。

私事ですが、ようやく基礎研修Ⅲまで終えることができました。ここまでやってこられたのは、同じ研修を乗り越えた仲間と講師の方々、運営の方々のおかげです。感謝しております。今後も自分のペースで、研鑽を積めたらと思います。(原田)